

29年11月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 11月1日～ 29年11月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/11月	12月	30/1月
仕入 動向	国産材製材品	14.3	△ 14.3	△ 28.6
	外材製材品	14.3	△ 21.4	△ 50.0
	構造用集成材	16.7	△ 8.3	△ 41.7
消費 動向	国産材製材品	21.4	△ 14.3	△ 28.6
	外材製材品	21.4	△ 14.3	△ 42.9
	構造用集成材	33.3	△ 8.3	△ 41.7
在庫 動向	国産材製材品	0.0	△ 7.1	△ 28.6
	外材製材品	△ 21.4	△ 21.4	△ 35.7
	構造用集成材	△ 16.7	△ 25.0	△ 50.0

・プレカット加工用部材の仕入及び消費動向は国産材製材品、外材製材品、構造用集成材とも11月の増加から12月、1月は減少に。

・在庫動向は国産材製材品は11月の横ばいから12月、1月は減少に。外材製材品、構造用集成材とも3カ月連続減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	29/11月	12月	30/1月
受注	35.7	△ 14.3	△ 42.9
加工	42.9	△ 7.1	△ 42.9
受注残	21.4	0.0	△ 28.6

・プレカット工場の受注及び加工動向は11月の増加から12月、1月は減少に。

・受注残は11月の増加から12月は横ばい、1月は減少に。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・外材に引っ張られ国産材も値上がり傾向。物不足が値上げ助長か。消費は順調に消化。値上げ対応で若干在庫が膨らむ。構造用集成材は取扱いなし。

・国産材以外は翌々月から仕入を減らす。当月を消費のピークを考えその後は減少へ。在庫は翌々月に向けて減少。当月は消費増により在庫減。

・需要は堅調、仕入、消費の先行きも年末の12月20日頃まではこの調子を維持。基本的に在庫はしない。

・米マツの値上げなどで利益率ダウン。

(受注動向)

・不需求期に向かうのに資材調達しなければならない苦しさあり。高止まり懸念。

・受注、加工とも今年のピーク。但し、翌月から直ぐに減少。

・多少忙しくなってきた。